

クリスマスの季節になりました。クリスマスは一年で一番美しく、素晴らしい時期の一つと言えるでしょう。今朝の聖書箇所は遠方から博士が訪ねる場面ですが、クリスマスの話の中で最も素晴らしい話の一つです。私たちが東方の博士と呼ぶ彼らは、救世主を探し求め、そのお方を見つけ、生まれたばかりの子、王であられるイエス様、神様の御子、私たちの主であり、救い主であられるお方のご誕生に喜びであふれていました。この箇所を、今朝は手短かに見ていきますが、そこでキリストに対して見せた反応によって、人々は3つのグループに分けることができます。聖書全体を見ても、その3つのグループが主な応答であることがわかるでしょう。

## 1. キリストへの応答1 - ヘロデ: 敵意と拒絶

マタイによる福音書には、イエス様のご誕生はヘロデ王の時代だったと記されています。歴史の記述によると、この陰険で残忍な王は自分の妻、母親、二人の息子、そして長男を殺害しました。博士たちが、「ユダヤ人の王としてお生まれになった方はどこにおいでになりますか。」と言ったとき、ヘロデが非常に心を乱したのも不思議ではありません。邪悪なヘロデは、自分だけが「ユダヤの王」という称号を持っていたかったので、イエス様を殺そうとしましたが、それも不思議ではありません。ただの幼子かもしれませんが、子供は育ちます。そしてこの子供がユダヤの王であるという考えも膨らんでいくでしょうから、ヘロデの王座を脅かしかねません。そのような脅威を取り除くために、ヘロデはその子を見つけ出して殺害しようとした。ヘロデは、3人の博士たちにだまされたことがわかると、非常に起こって、ベツレヘムとその近辺の二歳以下の男の子を一人残らず殺す命令を下しました。

世の中に目を向けると、ヘロデ王のように振る舞う国の支配者がたくさんいます。彼らは、王であられるイエス様を恐れています。彼らにとって、王の王、主の主であられるお方の話を聞くのは脅威なのです。主イエス・キリストの良い知らせに耐えられないのです。彼らには、キリストが人々のために十字架でくださったことを受け入れることができません。だから、彼らはキリストに従う人を探し出して、殺そうとします。実に、彼らはあらゆる手段でイエス・キリストの教会を破壊しようとしています。彼らのキリストへの応答は、ヘロデに見られる敵意と拒絶です。

## 2. キリストへの応答2 - 宗教学者たち: 無関心

ヘロデ王も異邦人の博士たちと同様に聖書について知らなかったもので、宗教学者たちを集めてキリストはどこで生まれるのかと問いました。学者たちは、その答えを知っていたので、旧約聖書を調べることなく、すぐにミカ書を示しました。彼らはその箇所を引用し、キリストはベツレヘムで生まれると答えました。ミカ書5章2節にある通りです。「ベツレヘム・エフラテよ。あなたはユダの氏族の中で最も小さいものだが、あなたのうちから、わたしのために、イスラエルの支配者になる者が出る。その出ることは、昔から、永遠の昔からの定めである。」この学者たちは、71人からなる最高議会のメンバーで、預言者ミカがイエス様がベツレヘムでお生まれになると預言した聖書箇所から答えをはっきりと知っていました。彼らは旧約聖書を熟知していたからです。彼らは、ヘロデにすぐに答えました。というのも、キリストがベツレヘムでお生まれになると特定した預言者はミカだけであることをこの学者たちはよく知っていたからです。

しかしながら、この学者たちが自分たちの目で救世主を見つけようとしたという記録は残っていません。彼らは救い主を求めてベツレヘムに行きませんでした。真実を知り、それに関する聖書箇所も正しく引用できたのに、学者たちはそれが彼らにとって何を意味するか、またそれにどう応答すべきかについて全く気にしませんでした。新しい王のご誕生の知らせを、宗教学者たちが気に留めなかったのは、非常に注目すべきことです。宗教学者が一番にベツレヘムへ急いで駆け付けたと思った人もいないのでしょうか。

ヨハネ1:10-11で「この方はもともとから世におられ、世はこの方によって造られたのに、世はこの方を知らなかった。この方はご自分の国に来られたのに、ご自分の民は受け入れなかった。」とヨハネも言っています。神様の民は、イエス様のご誕生に関してほとんど興味を示していません。神様の御子をご自分の国に来られたのに、ご自分の民は受け入れませんでした。彼らは救い主、宇宙の支配者を無視していました。神様の御子であられるお方が8キロ程しか離れていない所にお生まれになったのに、彼らはそのお方を拝みに行こうとはしませんでした。彼らのキリストに対して無関心でした。全く関心がなかったのです。

### 3. キリストへの応答3 - 東方の博士たち：畏敬と賛美

宗教学者の態度と、異邦人であった博士たちの態度は対照的です。呪われた異邦人たちは神様から送られた救世主を見つけましたが、神様の民はそうしませんでした。博士たちは星のあまりはっきりしない啓示にも関わらず、長く険しい道を旅しました。ユダヤ人の王を探し出そうという彼らの情熱はすたれることなく、そのお方を見つけたときの彼らの喜びはこの上ないものでした。彼らはキリストに対し、畏敬と賛美をもって応えました。10節に記された博士たちの反応を見てください。「その星を見て、彼らはこの上もなく喜んだ。」星を見たときの彼らの反応から、新しく生まれた王様に会いたいという期待と願望の強さがわかります。彼らはとてつもなく大きな歓喜に満たされました。それは、そのお方のご誕生を確かめることができたからです。そして、神様の御手によって、その場所へ導かれたことを知ったからです。それは言いようもないほどの喜びでした。

さらに、この博士たちは神様から御言葉を受けて、疑うことなく神様の導きに従って星を追い、イエス様の足元にひれ伏して、用意してきた贈り物を捧げ、王様を拝みました。11節を注意して読んでください。

「…幼子を見、ひれ伏して拝んだ。そして、宝の箱をあけて、黄金、乳香、没薬を贈り物としてささげた。」博士たちは、キリストに対し、へりくだって、畏敬と賛美で応えました。

キリストに対する3種類の応答は、今日の私たちにも与えられている選択肢です。ヘロデのように救い主を拒絶するか、宗教学者のように無視するか、あるいは博士たちのようにキリストを受け入れて拝むか。イエス様のご誕生に、あなたはどのように応えますか。イエス様があなたの生活の中心におられ、全ての主であられるという事実にもどどのように向き合いますか。幼子の王イエス様のもとに来てひれ伏し、拝みましょう。そして宝の箱を開け、私たちの愛という贈り物をイエス様に捧げましょう。このクリスマスの季節に、皆さんが博士たちの喜びを持つことができますように。イエス様を救い主、あなたの主として知ることの喜びを純粹に感じるすることができますように。アーメン。